

—若手技術者のコーナー—

これまでの経験を今後



1. はじめに

静岡市は静岡県中部に位置し、安倍川や三保松原、日本平といった広く名を知られた豊かな自然に恵まれ、お茶、桜えび、プラモデルで有名でもある。また市内の清水港は国際貿易を担う重要な拠点として知られている。

私は土木技術職員として平成23年4月、静岡市役所に入庁し、今年で8年目を迎える。

2. これまでの業務

入庁から3年間は清水駅周辺整備課の工事係に配属となり、JR東海道線清水駅西口の区画整理事業に伴う建設工事を担当した（今年9月、故さくらももこさんデザインのマンホールが設置された）。当時でも珍しい市施行による区画整理であり、道路築造や無電中化等の工事監督を行っていた。工事を行うためには地元住民の協力と調整が必要不可欠で、説明会の開催や個別訪問を実施し、厳しい意見や要望をうけたことを今でも鮮明に覚えている。入庁したばかりは地元の意見を受け入れ、実行していればよいのではないかと思っていたが、物を造る際には様々な基準に準拠しなければならず、地元の意見がそのまま反映されることは少なかった。そんな中、やりがいを感じられたのが、自分で設計した物が、人で賑わう駅前に来上がり、目に見え、そこに残り続けることであった。何十年も供用され、次の代まで残るものを設計から携われたのはとても幸せなことであった。

4年目からは下水道建設課の工事係に異動となり、汚水・雨水工事の設計及び監督業務を行った。汚水工事は供用区域（下水道が使える区域）の未整備箇所に汚水管を整備していくことと道路拡幅に伴う歩道内への移設（布設替）を行い、雨水工事では浸水対策用の雨水渠を地中に埋設する工事を行ってきた。

近年では全国的に局所的な大雨などによる大規模な浸水被害が出ており、静岡市内でも度々浸水被害が生じていることから地元から早急な対応を求められていた。そんな中、私が担当した雨水渠工事で思

い出深い工事を簡単に紹介する。泥土圧シールド工法により、地下3～10mの位置に内径φ2,200～2,600mmの管渠を延長L=1,240m築造する工事を発注した。工事期間は約3年で大手ゼネコンと市内業者の3社JVで工事を進めていった。大手ゼネコンは日々の出来形管理、品質管理、安全教育に力を入れており、それを市内業者にしっかりと教育していた。

また、掘進中の異常時対応も迅速かつ正確な報告を行い、問題なく工事を完成することができた。市発注工事の中でも大手ゼネコンと一緒に仕事をする機会は限られており、今回それができたことはとても貴重な経験であった。

3. おわりに

これまで様々な工事を設計・監督することができ、土木技術職員としての知識を着実に得られた。今年度から、新たな職場である道路整備課へ異動となったので、これまでの経験を活かしつつ、さらなる成長をしていきたい。

また、今年1月に全建静岡市協会にて東北の復興視察に行き、被災箇所を見てきた。震災から7年が経とうとしているが、海沿いは未だに復興が完了していなかった。このような光景を見て、今後静岡でも南海トラフ大地震が起きた際、何ができるかを考えておかなければならないと感じた。いざ災害が発生した際に、迅速かつ的確な行動・判断が取れるよう、災害復旧に関する知識も増やしていきたい。



工事で使用したシールドマシン

（静岡市 建設局 道路部 駿河道路整備課 井出 裕之）